

研究課題 (テーマ)		幼児を持つ母親の精神的健康に関する研究 ―就業状況による比較―	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学部	助教	浜多美奈子
	看護学部	教授	田中いずみ
		講師	杉山由香里
		講師	遠田大輔
研究結果の概要			
<p>本研究の目的は、幼児を持つ母親の精神的健康の実態を就業別に明らかにすることである。富山県内の健康センターに協力を依頼し、同意の得られた6施設を通して、幼児を持つ母親を対象に質問紙調査を行った。調査は2023年2月～4月に実施した。精神的健康 (SUBI)、属性、家庭状況、就労状況、サポートの有無などについて分析した。</p> <p>幼児を持つ母親505名を対象に質問紙を配布し、有効回答91名を分析した(有効回答率18.0%)。母親の年齢は平均34.4±4.8歳であった。核家族世帯は64.7%で、子供の数は2人(47.3%)が多かった。夫の平均労働時間(週)は45.6±11.7時間であった。就業状態は無職が13.2%、有職が46.2%、育休中が40.7%であった。有職群での職種は事務職が31.0%と多く、平均労働時間(週)は32.7±8.9時間であった。各群のSUBI下位尺度<心の健康度>得点は、無職群は平均38.4±6.3点、有職群は平均38.4±6.4点、育休群は平均40.3±6.2点であった。SUBI下位尺度<心の疲労度>得点は、無職群は平均34.9±4.9点、有職群は平均35.4±7.9点、育休群は平均32.5±7.4点であった。</p> <p>3群におけるSUBI<心の健康度><心の疲労度>得点と他の調査項目(子供の数、育児ストレス、家事ストレス、家族サポート、心のゆとり感、夫の労働時間、経済的余裕、有職群ではこれらに加えて仕事ストレス、職場サポート)との関連を調べた結果、無職群では心の健康度得点と家族サポート($r=.64$)、心の疲労度得点と育児ストレス($r=.63$)との間に相関が認められた。有職群では、心の健康度得点と心のゆとり感($r=.45$)、家族サポート($r=.40$)、心の疲労度と心のゆとり感($r=-.59$)、育児ストレス($r=.56$)との間に相関が認められた。育休群は心の健康度得点と心のゆとり感($r=.58$)、家族サポート($r=.46$)、育児ストレス($r=-.48$)、家事ストレス($r=-.42$)、子供の数($r=-.34$)、心の疲労度得点と家事ストレス($r=.61$)、育児ストレス($r=.52$)、心のゆとり感($r=-.48$)、経済的余裕($r=-.45$)、家族サポート($r=-.41$)との間に相関が認められた($p<.05$)。</p> <p>本研究より、幼児を持つ母親の精神的健康は就労状況により関連要因が異なることが明らかとなった。どの群においても、心の健康度と家族からのサポート、心の疲労度と育児ストレスが関連していたが、有職群は心のゆとり感、育休群は子供の数と家事ストレスが精神的健康に関連することが示された。母親の精神的健康の向上には、育児ストレス軽減への支援および家族からのサポートが重要であり、就労者には心にゆとりが持てるような時間の確保、育休中の母親には家事サポートの提供が重要であると考えられる。</p>			
今後の展開			
<p>本研究の成果を学会にて発表し、論文投稿を目指す。今後の展開として、インタビュー調査などを行い質的研究アプローチにより、母親の就業とメンタルヘルスに関する関連因子を明らかにしていく。</p>			